

平成28年度

学校評価アンケート資料

《教員・生徒・保護者》

大阪商業大学高等学校

平成28年度 『学校評価』 アンケート結果

(資料) 学校評価アンケート内容

※教員・生徒・保護者で表現が若干異なるが(主語の違い)、内容は下記となります

1. 学校の雰囲気がよい ----- <高校生活全体>
 2. あいさつに溢れる学校である ----- <高校生活全体>
 3. 自分のクラスが楽しいと感じている ----- <高校生活全体>
 4. コースの取り組みには満足している ----- <高校生活全体>
 5. 多様な資格取得ができるのでよい ----- <高校生活全体>
 6. 本校の教員は教育熱心である ----- <高校生活全体>
 7. 授業がわかりやすいと感じている ----- <学習>
 8. 授業を意欲的に取り組んでいる ----- <学習>
 9. 授業・模擬試験が進路に対応している ----- <進路指導>
 10. 進路に必要な情報は適切に提供されている ----- <進路指導>
 11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている ----- <生活指導>
 12. 生徒に対する学校の規則は妥当である ----- <生活指導>
 13. 生徒は学校の規則を守っている ----- <生活指導>
 14. 生徒は生活指導について納得している ----- <生活指導>
 15. 学校行事は楽しく充実している ----- <行事>
 16. 部活動は活発で充実している ----- <行事>
 17. 校内の施設設備はよく整備されている ----- <その他>
 18. 入学してよかった ----- <その他>
- ※参考 ベル着を守っている ----- <生活指導>

平成28年度 学校評価 資料

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

1. 学校の雰囲気がよい					1. 学校の雰囲気がよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	30	42	18	10	保護者	34	58	6	2
第1学年	32	41	19	7	教員(男)	22	44	24	9
第2学年	23	47	20	10	教員(女)	5	82	5	9
第3学年	33	45	10	11	生徒(男)	31	44	15	10
					生徒(女)	25	45	22	9

2. あいさつに溢れる学校である					2. あいさつに溢れる学校である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	40	39	15	6	保護者	30	56	11	3
第1学年	38	40	16	5	教員(男)	9	53	31	7
第2学年	43	38	14	5	教員(女)	0	50	27	23
第3学年	41	38	15	8	生徒(男)	44	36	13	7
					生徒(女)	29	48	20	4

3. 自分のクラスが楽しいと感じている					3. (生徒は) 自分のクラスが楽しいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	52	33	10	5	保護者	43	42	10	5
第1学年	54	31	10	5	教員(男)	16	73	9	2
第2学年	46	38	11	4	教員(女)	0	100	0	0
第3学年	55	31	8	6	生徒(男)	53	33	10	4
					生徒(女)	49	34	9	8

4. コースの取り組みには満足している					4. コースの取り組みには満足している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	48	36	10	6	保護者	36	55	7	2
第1学年	53	35	8	4	教員(男)	11	33	42	13
第2学年	43	39	14	5	教員(女)	0	52	24	24
第3学年	49	34	9	8	生徒(男)	49	34	11	6
					生徒(女)	46	40	9	5

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

5. 多様な資格取得ができるのでよい					5. 多様な資格取得ができるのでよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	37	41	16	6	保護者	37	45	15	3
第1学年	43	44	9	3	教員(男)	7	53	40	0
第2学年	33	41	19	7	教員(女)	5	59	27	9
第3学年	32	38	20	10	生徒(男)	37	41	16	7
					生徒(女)	36	43	16	5

6. 本校の教員は教育熱心である					6. 本校の教員は教育熱心である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	40	41	12	7	保護者	37	50	10	2
第1学年	48	37	8	6	教員(男)	22	51	18	9
第2学年	31	43	18	8	教員(女)	0	86	14	0
第3学年	38	44	11	7	生徒(男)	41	41	12	6
					生徒(女)	36	42	13	8

7. 授業がわかりやすいと感じている					7. 授業がわかりやすいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	25	48	20	7	保護者	14	61	20	5
第1学年	27	50	18	4	教員(男)	16	67	16	2
第2学年	17	48	26	9	教員(女)	10	76	14	0
第3学年	32	49	12	7	生徒(男)	26	49	19	7
					生徒(女)	21	48	24	7

8. 授業を意欲的に取り組んでいる					8. (生徒は) 授業を意欲的に取り組んでいる				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	28	47	19	6	保護者	19	51	24	6
第1学年	32	49	14	4	教員(男)	0	22	56	22
第2学年	22	47	23	7	教員(女)	0	18	64	18
第3学年	28	44	20	8	生徒(男)	28	47	19	6
					生徒(女)	26	46	20	8

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

9. 授業・模擬試験が進路に対応している					9. 授業・模擬試験が進路に対応している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	35	44	15	5	保護者	19	58	19	3
第1学年	36	48	13	3	教員(男)	4	49	36	11
第2学年	30	46	19	5	教員(女)	5	57	29	10
第3学年	38	37	15	10	生徒(男)	37	43	15	6
					生徒(女)	29	49	18	5

10. 進路に必要な情報は適切に提供されている					10. 進路に必要な情報は適切に提供されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	39	45	12	4	保護者	25	53	19	3
第1学年	40	45	12	3	教員(男)	16	69	13	2
第2学年	33	49	13	5	教員(女)	10	76	10	5
第3学年	44	40	11	6	生徒(男)	41	43	11	5
					生徒(女)	33	49	14	3

11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている					11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	35	43	15	7	保護者	29	55	12	4
第1学年	36	43	15	5	教員(男)	14	73	9	5
第2学年	29	48	15	8	教員(女)	24	57	14	5
第3学年	40	37	16	7	生徒(男)	36	43	15	7
					生徒(女)	34	42	17	7

12. 生徒に対する学校の規則は妥当である					12. 生徒に対する学校の規則は妥当である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	34	40	17	9	保護者	37	53	6	4
第1学年	35	43	16	6	教員(男)	20	53	18	9
第2学年	27	42	21	10	教員(女)	14	50	32	5
第3学年	38	35	15	12	生徒(男)	37	40	14	9
					生徒(女)	24	40	25	10

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

13. 生徒は学校の規則を守っている					13. 生徒は学校の規則を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	58	33	7	3	保護者	57	38	4	2
第1学年	61	30	6	2	教員(男)	4	33	38	24
第2学年	53	35	8	3	教員(女)	0	23	59	18
第3学年	58	34	5	3	生徒(男)	61	31	5	3
					生徒(女)	46	39	11	3

14. 生徒は生活指導について納得している					14. 生徒は生活指導について納得している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	33	38	17	12	保護者	37	52	8	2
第1学年	36	40	16	8	教員(男)	4	58	29	9
第2学年	26	43	17	15	教員(女)	10	43	48	0
第3学年	38	30	19	14	生徒(男)	36	38	15	11
					生徒(女)	24	38	23	15

15. 学校行事は楽しく充実している					15. 学校行事は楽しく充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	41	38	14	7	保護者	36	50	12	1
第1学年	46	38	11	5	教員(男)	16	67	13	4
第2学年	35	37	19	9	教員(女)	19	57	19	5
第3学年	41	37	15	8	生徒(男)	43	37	13	7
					生徒(女)	35	40	18	8

16. 部活動は活発で充実している					16. 部活動は活発で充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	41	35	11	13	保護者	40	45	11	4
第1学年	43	36	8	13	教員(男)	33	47	16	4
第2学年	37	35	13	15	教員(女)	29	52	19	0
第3学年	44	34	12	10	生徒(男)	43	33	10	14
					生徒(女)	37	41	12	10

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

17. 校内の施設設備はよく整備されている					17. 校内の施設設備はよく整備されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	20	29	24	27	保護者	21	54	19	6
第1学年	22	31	23	24	教員(男)	2	18	36	44
第2学年	15	27	25	34	教員(女)	10	19	33	38
第3学年	25	30	23	23	生徒(男)	21	27	23	28
					生徒(女)	17	36	25	23

18. 入学してよかった					18. (生徒は)入学して(させて)よかった				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	31	42	17	10	保護者	49	42	7	1
第1学年	31	38	18	13	教員(男)	11	69	16	4
第2学年	23	49	20	7	教員(女)	0	90	10	0
第3学年	39	40	11	10	生徒(男)	31	41	17	10
					生徒(女)	31	46	14	9

<参考>

※ ベル着を守っている					※ (生徒は)ベル着を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	55	31	10	5	保護者	----	----	----	----
第1学年	63	29	6	3	教員(男)	2	27	49	22
第2学年	52	29	14	5	教員(女)	5	18	45	32
第3学年	49	35	10	7	生徒(男)	----	----	----	----
					生徒(女)	----	----	----	----

平成28年度 「学校評価」 アンケート結果

◇高校生活全般について（Q1-6）

「学校の雰囲気について」の質問に対して、生徒・保護者は概ね肯定的な回答である。特に保護者から高い評価を得ており、生徒から聞く学校生活、または保護者の方が来校された際の雰囲気などを評価していただいた結果と考えられる。

「あいさつに溢れる学校」については、生徒からの肯定的意見は非常に高いが、教職員は否定的な数値が高い。数年前からの取り組みとして、行っているものであるが、さらに現状に満足せず、もっとあいさつに溢れるキャンパスを創りだしたいという気持ちの表れと言えよう。

学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、概ね肯定的な回答が出されていることは評価できる。クラス活動を豊かなものにするという生徒たちの考えと、学級担任の努力の結果と言える。

「コースの取り組み」については生徒は概ね肯定的な回答であるが、保護者・教員は若干ではあるが、否定的に推移している。特に教員はその傾向が強い。教員側の描いているコース像と生徒のものとの相違が生じている可能性も考えられる。生徒のコースに対する意識を調査することも今後必要と思われる。

「資格取得の多様性」「教員の教育熱心」についても概ね肯定的な回答が出ている。さらにその数値が上がるように、学校として努力を継続する必要がある。

◇学習について（Q7-8）

「授業のわかりやすさ」について、生徒の肯定的回答が7割を占めているが、2年において否定的回答が30%を超えていることは問題視する必要がある。また保護者の数値も25%に達している。学校は学習する場であるのでその数値を肯定的なものに変化させていくことが必要であり、その改善のためにリサーチしていく必要がある。教員の数値は比較的肯定的な回答となっている。公開授業や外部の教科指導研修会などへの参加も以前よりも増えており、教授法に対する研究は高くなっている。しかし、生徒の意見にも耳を傾け、さらに充実を図る努力が必要である。

「授業への意欲的な取り組み」は生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。更に向上心を持って授業に臨んでほしいという意識の表れと分析できる。

◇進路指導について（Q9-10）

「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は概ね良好であるが、教員の回答は否定的なものが多い。系列校、指定校、AO入試など学科試験が課せられない入試制度を利用している生徒が多く、教員の思いとして、授業で培った学力・知識を用いてチャレンジしてほしいという気持ちとのギャップがあると考えられる。「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。また保護者対象の説明会などの機会も増えた。進路やキャリアに関する情報を提供し、選択肢を広げるために指導を強化したいという気持ちの表れであると分析できる。

◇生活指導について（Q11-14）

「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者（生徒・保護者・教員）ともに肯定的回答が大部分を占めている。日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、女子の回答で否定的なものが若干目立つ結果となったが、約70%の生徒は本校の規則を肯定

的にとらえている。「生徒が規則を守っている」は生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。生じている差が何であるか、分析する必要がある。「生徒は生活指導に納得している」に関しては、生徒は40%前後が否定的にとらえている。『指導する』側（教員）と『指導される』側（生徒）の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくための取り組みが必要である。

◇高校生活全般・行事・その他について（Q15-18）

「学校行事」「部活動」について、肯定的回答が多数を占めた。有意義な高校生活を過ごしていくために大事な要素であるので、さらにその数値を伸ばしていくために、生徒自治会を中心に取り組んでいく。

「校内施設設備」については、否定的な回答が目立つ結果となった。現存の施設をまず有効的に使用し、並行して長期的な施設の改善を検討することも必要である。

最後の質問である「入学して（させて）よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。しかし『どちらかといえばそう思う』が大半であり、『そう思う』が大半を占めるよう、また最終学年の第3学年の数値が向上するよう目指さなければならない。

※「ベル着」について

生徒は概ね肯定的な回答であるが、その一方教員は否定的な回答となっている。生徒は授業開始のベルが鳴った際には教室内にいることをベル着ととらえている傾向にあり、その反面教員はベルと同時に授業を開始するという意味でとらえているギャップがあると考えられる。生徒・教員ともに「50分間しっかり授業を行う（受ける）」意識を共有することが基本である。

◎まとめ◎

今年度は、すべての設問に対して肯定的な回答が多かったと評価できる。また三者間で大きく内容が異なるものは比較的少なく、基本的には同じような傾向が出ていたと思われる。

クラス活動、クラブ活動、学校行事など“楽しい”と評価できる項目については日頃の教育活動が実を結んでいると思われるが、生活指導面や学習面など、“しんどい”“面倒”“苦勞・努力”が必須になる項目については教員・生徒ともに意識を変えていく必要性が急務である。

平成 29 年 3 月 11 日(土)

10:00～11:30

議長 西田 博

書記 唐崎千春

大阪商業大学高等学校

2016年度 学校評価委員会議事録

1. 参加者紹介

本校教職員 : 副校長 阪口耕次・教頭 西田 博・教頭補佐 小守良昌・事務長 入口智
生徒指導副部長 唐崎千春・学校評価委員:天野隆夫・佐藤大介
本校生徒 : 生徒自治会会長 北 健吾(2年)・書記 上村 美友(1年)
本校PTA : 会長 新谷雅勝・副会長 池田宗治
大阪商業大学:教授 佐野 茂・教務課長 田畑麻貴子

2. 副校長挨拶

3. 「学校評価アンケート資料」の説明(別紙参照)

教員・生徒・保護者アンケートを以下の観点でまとめた平成28年度「学校評価アンケート結果」について小守より説明があった。『「ベル着」について』の項目は、昨年度よりの取り組みの状況を確認するために、生徒と教員にアンケートを行ったものであり、保護者は対象としていない。

- ◆高校生活全般について(Q1-6)
- ◆学習について(Q7-8)
- ◆進路指導について(Q9-10)
- ◆生活指導について(Q11-14)
- ◆高校生活全般・行事・その他について(Q15-19)
- ◆「ベル着」について(生徒・教員のみ対象)
- ◆まとめ

※説明の後、資料に関する質問は特になかった。

4. 意見交換

参加者より、アンケート結果についてや、日頃感じていることなどを述べてもらった。

①アンケート全体について

「無記名で行われているが、否定的な意見についてはもっとつっこんで話を聞いてみたい。」

「教員の評価が昨年度に比べて全体的に肯定的なのは、学校が充実してきているからではないか。」という大学からの意見があった。

今回の結果について、教員で議論する場はあるのか、という大学からの質問について、結果についての公表は行い、方針に盛り込まれる事はあるが、議論するような場は特に設けない、しかし、教員もこの結果を意識しているし、この結果には載せていない自由記述の部分には厳しい意見も多いので、教員は目を通す必要があるという回答があった。

保護者から、現状を理解して指導をしており、教員からの学校評価が厳しい事について、質が高い教員が多いと思うとの評価をいただいた。

②授業・コース活動について

教員アンケートで、コースの取り組みに満足できていないのは、やりたいことが多いからだと思われる。予算や、コースのバランスの兼ね合いで、抑制されている部分がある。

一方で、授業については、去年に比べ教員自身の評価が上がってきている。公開授業などの取り組みがよかったのではないかとと思われる。

昨年度から、完全下校時間を 22 時から 21 時に変更したが、教員は夜遅くや休日でも、クラブや授業外の指導で残っている。教員の仕事内容は幅が広くて、「面倒見がいい」といわれる取り組みをしていると思う。

また、保護者からは、文理コースでは、勉強するクラスの雰囲気を作っていて、遅れていた勉強の指導や、帰宅が遅くなる時にはきちんと学校から電話連絡もあったという感謝の言葉を頂いた。

③進路指導について

保護者より、子どもが入学して目標がまだ持っていない時期に、適性検査などを行ってもらえて、自分を見つめる機会を作ってもらえたことを感謝しているという意見があった。

進路に関する情報の提供については、アンケートで「不足している」という意見は減ってきている。進路ガイダンスなど、ここ数年の取り組みが実を結んでいると思われる。

生徒からは、進学先で学べる事や就職先の情報が欲しいという意見があった。

また、大阪商業大学としては、設備もよくなってきており、教員との距離も近く、商業だけでなく、語学面でのサポートもできてきて、選択される幅を拡げてきているということを知ってもらいたいとの意見があった。

④生活指導について

<ルールについて>

保護者や生徒のアンケートの自由記載では、もっときびしくしてほしいという意見も多くあった。

生徒からは、「本校のルールが厳しいとも緩いとも思わないし、ルールを守らず教員に指導されている生徒はクラスでも 1～2 人程度である」、教員に注意されても改善できていない状況については、「守っていない生徒のせいで全体が注意されるのは嫌だと思う。」という意見があった。

ルールやベル着ができていないかの評価が生徒と教員で差があるのは、8～9割りの生徒はできていても、教員から見たらできていない生徒がいる、または教室にさえいればいいという生徒の認識と、座って授業ができる状況を求める教員の認識の差からきているのではないか。

<自転車について>

保護者から、自転車マナーが悪く、校門前にたむろしてあぶない。教員も立っていても注意していない、という意見があった。また、大学からも、危険な運転をしていて、事故にならないか心配であるという意見をいただいた。

本校では、11月から登下校時間に立ち番を行っており、生徒自治会の生徒も立ってくれている。また、校門で自転車をおりる指導を始めた、という現状を報告した。その中で、始業直前に登校する生徒に問題が多い点を指摘した。

<挨拶について>

挨拶をしてきている生徒は多く感じるが、保護者の意見では、ほぼクラブ生だと思われる。生徒自治会の挨拶運動でも、挨拶してくれるのは多くがクラブ生か教員であるということである。教員からも積極的に挨拶し、形式的なものではなく、コミュニケーションの一つとして声を掛け合える雰囲気をつくっていききたいと回答された。

⑤女子生徒の評価について

女子生徒の過ごしやすさについての質問に、「女子が入れるクラブが少なく、手芸部などがあればと

思う。バドミントン同好会に入ろうと思ったが、同好会だったのでやめた」、また、「男子の方が多いことは気にならないが、ゴミを放置するなど不潔だと思う時がある」という生徒からの意見があった。

⑥設備について

設備については、事務も鋭意改善に向けて努力しているところではあるが、特に現在気になる点について意見を頂いた。

<食堂>

保護者から、食堂が極端に狭く、1年生は2、3年生に気兼ねして使用しづらいという意見があった。大学の食堂の利用も検討できないか、ということについては、生活指導面、安全面、大学生の利用時間とかぶるなど、実現は難しいとの回答があった。

生徒からはメニューや自販機の充実を求められた。

<トイレ>

「新館のところより、東館のトイレは使いにくい。汚い。洋式のトイレが少ない」「廊下からトイレの中が見える」「トイレットペーパーや飲み物のゴミをポイ捨てする生徒がいる」という生徒からの意見があった。掃除が行き届いていないというわけではなく、使用マナーの問題である。

<廊下>

保護者から、廊下がすべりやすい、ななめになっている部分があるのが気になる、という意見があった。実際、来校者用スリッパがすべりやすく、来校者が転けそうになっている場面をたびたび見られることが指摘された。

平成 29 年 4 月より実施される 1F の二足共用について、生徒からは雨の日に裸足で歩くのは嫌だったので、よかったとの意見があった。

⑦全体について

保護者からは、子どもが元気に学校へ行っており、楽しんでいるとの意見を頂いた。

生徒アンケートで、上級生になるほど「入学してよかった」という意見が多くなるのは、教員の努力があると思われる。しかし、少数だが否定的な意見を持つ生徒がいるのを更に減らしていく努力が必要である。

5. まとめ

今回の会議も、活発な意見交換がなされた。アンケート結果も意見も肯定的なものが多かったが、少しでも否定的な意見が減るようにこれからも努力が必要である。また、このような多方面からの意見を聞く機会は、年度末に1回だけでなく、複数回行えると、次年度の方針や取り組みに反映させることができるのではないかと。本校の取り組みへの多方面の方々のご理解とご協力に感謝したい。